

# 仙台古地図にみる 大條屋敷 の 遷移

出典：

- 1) 絵図・地図で見る仙台 第一輯【第二版】  
— 高倉淳 編著 / 今野印刷
- 2) 「仙臺城下繪圖の研究」附圖第一六  
— 斎藤報恩会博物館図書部研究報告, 第4.  
仙臺城下繪圖の研究 東洋書院 1976年7月
- 3) 東北大学埋蔵文化財調査室調査報告5  
仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区 第16地点 より  
— 東北大学埋蔵文化財調査室 2016

## 地図一覧

出典に関わらず、年代順

1. 仙台城下図絵 寛文四年 (1664年)
2. 「仙臺城下繪圖の研究」附圖第十六 延寶六年～七年  
(1678年～1680年)
3. 仙台城下五釐卦繪図 元禄四～五年 (1691年～1692年)
4. 仙台城下繪図 享保九年 (1724年以降)
5. 仙台城下繪図 宝暦十年～明和三年 (1760年～1766年)
6. 仙台城下繪図 天明六～寛政元年 (1786年～1789年)
7. 安政補正改革仙府繪図 安政三～六年 (1856年～1859年)
8. 明治元年現状仙台城市之図 明治元年 (1868年)
9. 仙台市測量全図 明治二十六年 (1893年)

**大條11代～17代**  
**1664年(寛文)～1888年(明治)**  
**の地図9種**

- －(年号)西暦 : 地図作成時の年代  
□①～④ : 現仙台市地図(次ページ)と対応

**大條監物**(11代 宗道 没1705年) \* 茶室拝領の第15代道直も'監物'を称したが別人。

- ・片平町で2か所遷移
  - －(寛文四年)1664年 ①
  - －(延寶六～八年間)1678年～1680年 ①
  - －(元禄四～五年)1691年～1692年 ②

**大條監物**(12代 道頼 没1762年)

- ・川内の御炭蔵の隣の敷地(北:鮎貝又右衛門/東:高屋喜安/南:御炭蔵)に遷移
  - －(享保九年以降)1724年以降 ③

**大條蔵人**(12代 道頼 没1762年

or 13代 篤恭 没1810年)

- ・川内敷地が、約倍に拡大(北:空き屋敷)
  - －(宝暦十～明和三年)1760年～1766年 ③

**大條内蔵人**(13代 篤恭 没1810年)

- ・北隣の空き屋敷が、「高城宅三郎」屋敷に
  - －(天明六～寛政元年)1786年～1789年 ③

**大條孫三郎**(16代 道治 没1895年/隠居1864年)

- ・川内敷地そのまま 北隣が「鈴木直記」屋敷に
  - －(安政三～六年)1856年～1859年 ③
  - －(明治元年)1868年 ③

**大條孫三郎**(17代 道德 没1924年)

- ・支倉町に移転＝大條家資料(明治21年)1888年
  - －(明治二十六年)1893年 ④

★**遷移の概要**

- ・片平町で2か所遷移後、川内へ
- ・川内に遷移後は、屋敷位置の変更なくも、敷地面積拡大
- ・近隣屋敷には出入り変化あり
- ・明治時代に支倉町へ

★**川内遷移以前(片平屋敷当時)の川内の大條屋敷場所**

- ・寛文絵図((寛文四年)1664年
  - －大條屋敷の場所は古内、御炭蔵の場所は小国、登米伊達家の北側部分が御炭蔵。
- ・延宝絵図(延寶六～八年間)1678年～1680年
  - －大條屋敷の場所は古内左内、御炭蔵の場所は小国七衛門、(御炭蔵の場所不明)
- ・元禄絵図(元禄四～五年)1691年～1692年
  - －大條屋敷と御炭蔵の場所は後藤孫兵衛、(御炭蔵の場所不明)
- ・大條屋敷が川内遷移時には、既に南隣が御炭蔵か。

★**川内の近隣屋敷**

- ・近隣の出入りは、医者と武術(弓道、剣術)系藩士が多い。

\*あくまで、入手出来た古地図が根拠。他の古地図に新情報がある可能性はある

まとめ

# 現仙台市地図での大條屋敷の遷移

①～④の絵図年代は、前ページ

- ① 仙台市青葉区片平2丁目 東北大学片平キャンパス内電気通信研究所
- ② 仙台市青葉区片平1丁目 仙台高等検察庁
- ③ 仙台市青葉区青葉山無番地  
地下鉄東西線「国際センター駅」の北側 青葉山交流広場
- ④ 仙台市青葉区広瀬町



寛文四年 1664年  
片平町 大條監物

「絵図・地図で見る仙台」  
②-1

<大>

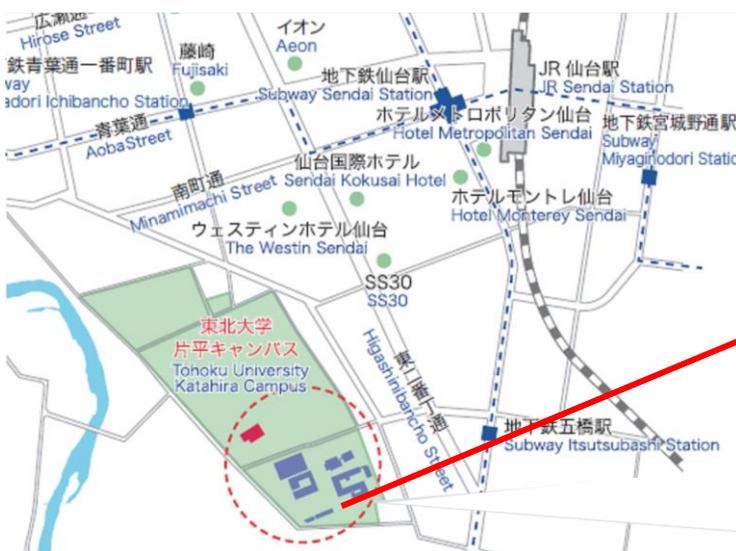
絵図・地図で見る仙台  
② 仙台城下絵図 (寛文四年)  
宮城県図書館蔵



② 仙台城下絵図 (寛文四年) 1664年 宮城県図書館蔵

原本 356 cm x 376 cm

【参考】



\* (現) 東北大学片平キャンパス内「電気通信研究所」

寛文四年 1664年

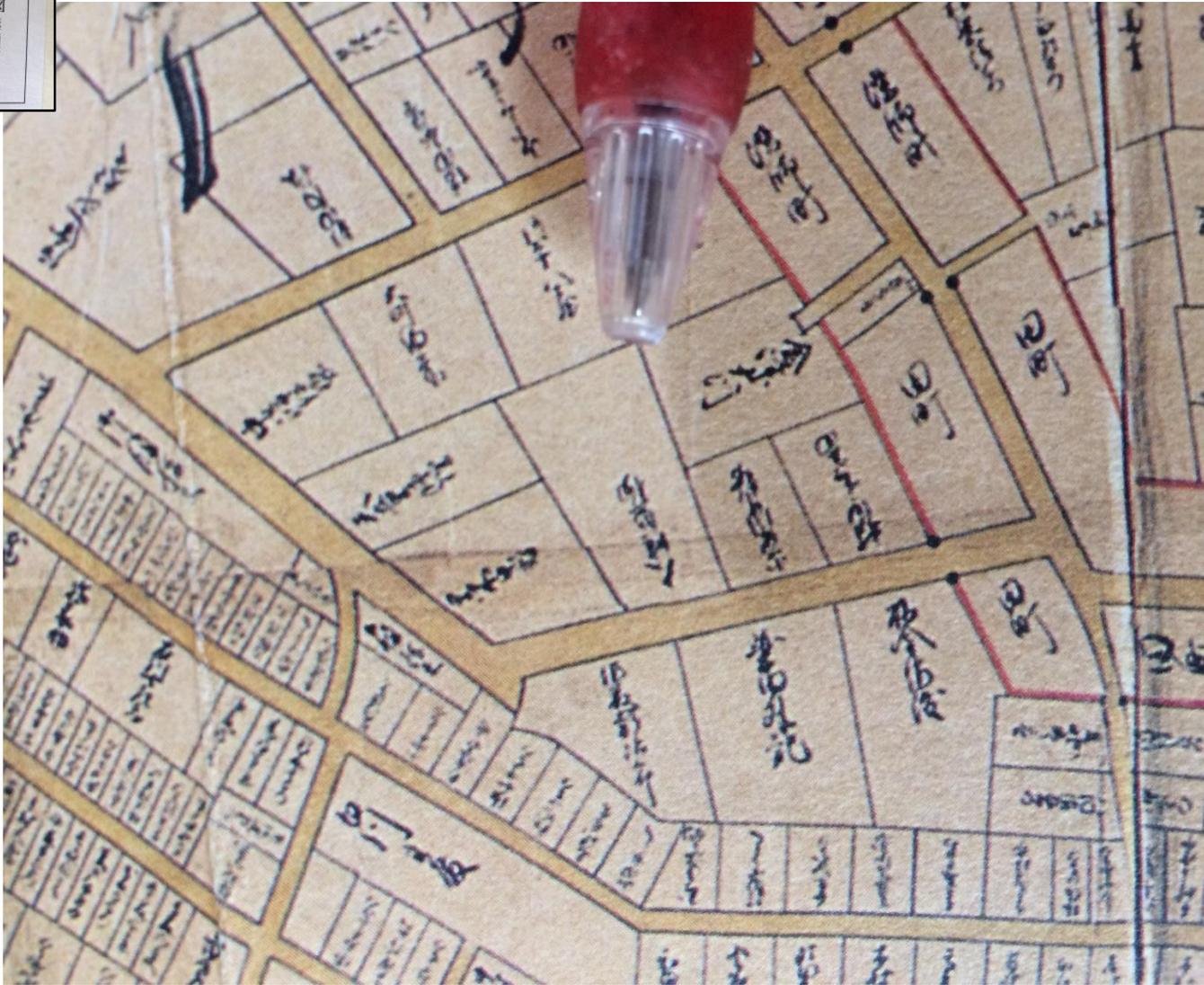
片平町 大條監物

「絵図・地図で見る仙台」

②-2

<細>

絵図・地図で見る仙台  
② 仙台城下絵図 (寛文四年)  
宮城県図書館蔵



② 仙台城下絵図(寛文四年)1664年 宮城県図書館 原本 35.6cm x 37.6cm

— 近隣屋敷 —

<東隣>

- ・小梁川中務
- ・村田玄蕃

<西隣>

- ・黒木主殿
- ・天童修理
- ・中嶋将監

<北隣>

- ・大町備前
- ・片平八蔵
- ・後藤大隅

<北東隣>

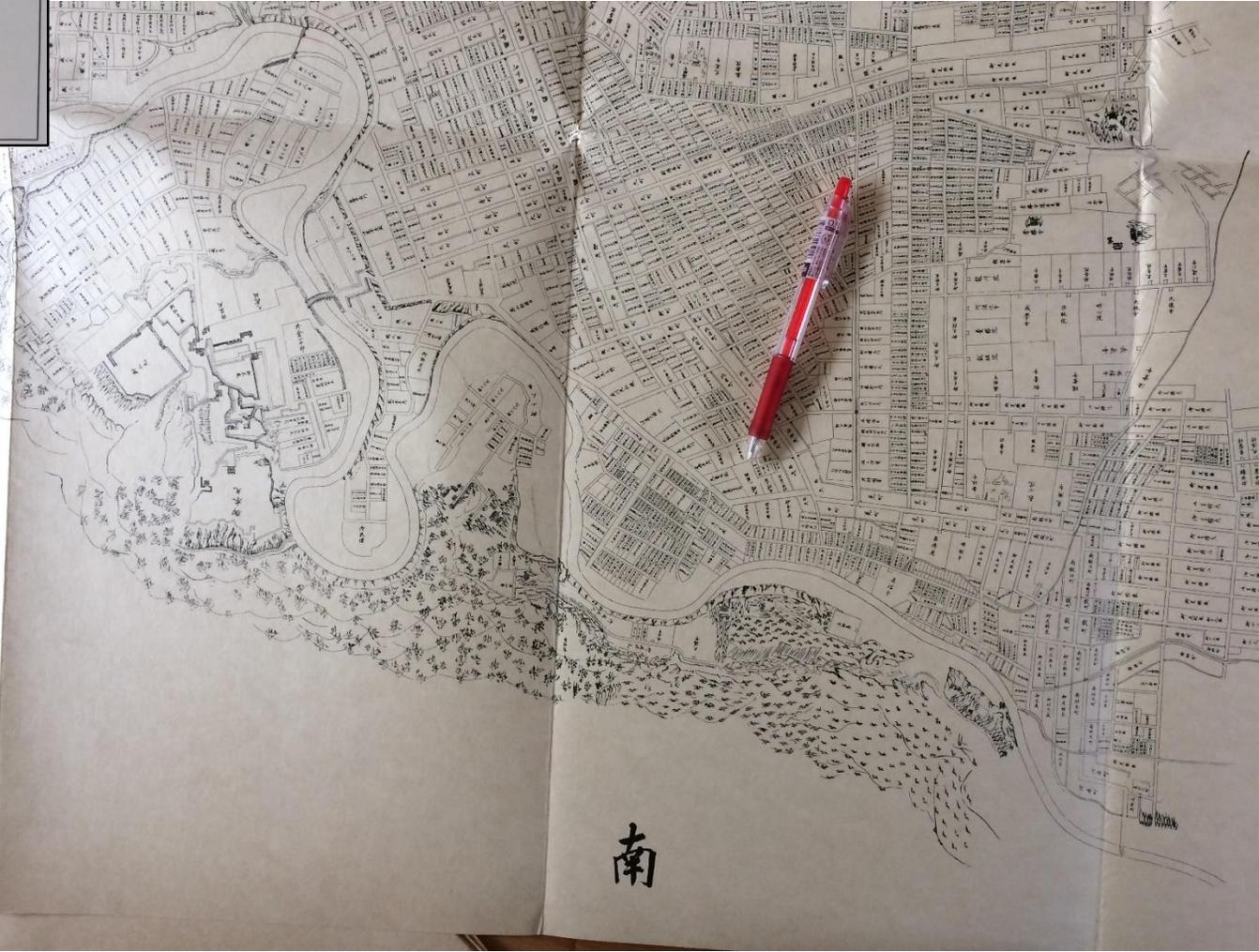
- ・金津大門

\* (現) 東北大学片平キャンパス内「電気通信研究所」

延寶六年同八年間 1678年～1680年

片平町 大條監物

<大>



南

仙臺城下大繪圖  
延寶六年同八年間製作  
宮城縣圖書館所蔵

仙臺城下繪圖の研究「附圖第一六 延寶六年同八年間製作 仙臺城下大繪圖 宮城縣圖書館所蔵」

\* (現) 東北大学片平キャンパス内「電気通信研究所」

# 延寶六年同八年間 1678年～1680年

## 片平町 大條監物

<細>



— 近隣屋敷 —

<東隣>

- ・木村久馬
- ・村田右近

<西隣>

- ・守屋四郎左衛門
- ・天童内記
- ・中嶋左衛門

<北隣>

- ・大町備前
- ・片平助衛門

\* (現) 東北大学片平キャンパス内「電気通信研究所」

仙臺城下大繪圖

延寶六年同八年間製作

宮城縣圖書館所蔵

仙臺城下繪圖の研究「附圖第一六 延寶六年同八年間製作 仙臺城下大繪圖 宮城縣圖書館所蔵

【推定】元禄4～5年：1691年～1692年

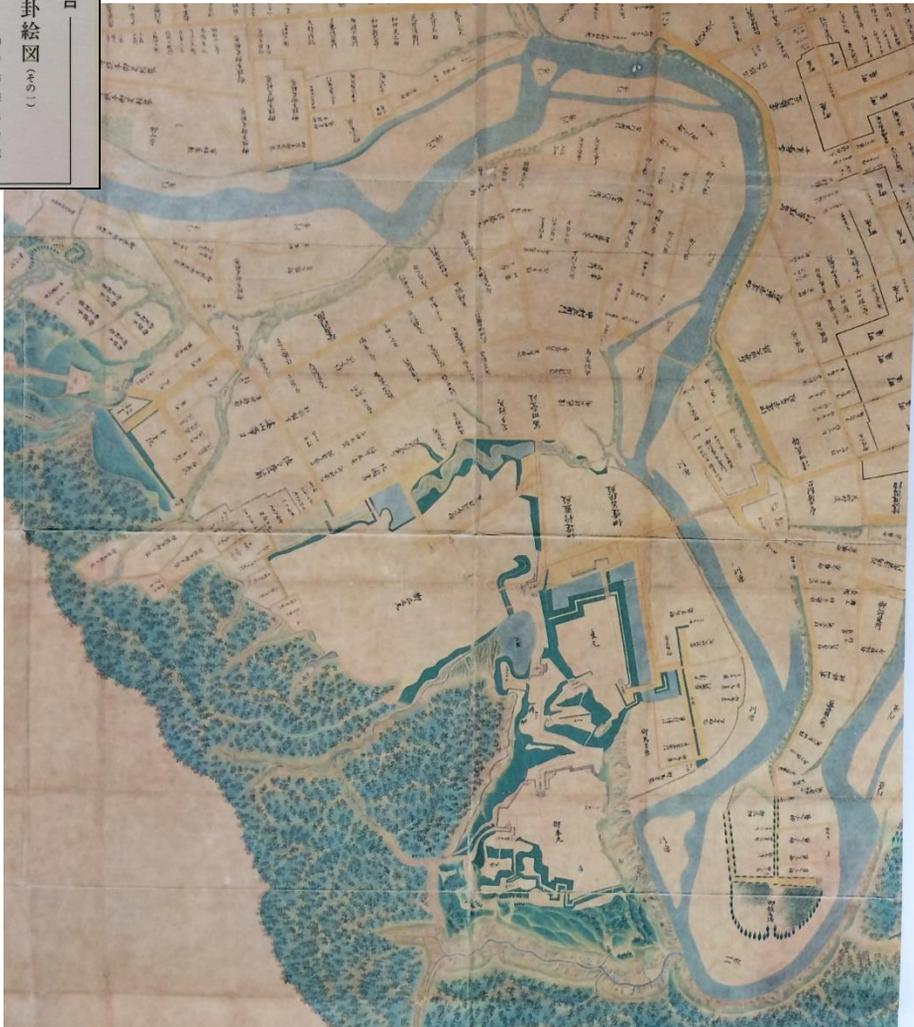
片平町 大條監物

<大>

絵図・地図で見る仙台

③ 仙台下五釐卦絵図(その一)

原簿 三五六頁×三七六頁



③ 仙台下五釐卦絵図(その一)

斎藤報恩会蔵

原本 356cm x 376cm

【参考】



\* (現) 高等検察庁

【推定】元禄4～5年：1691年～1692年

片平町 大條監物

<細>

絵図・地図で見る仙台

③ 仙台北下五釐卦絵図(その一)

齋藤報恩会蔵  
原本 三五六号×三七六号

③ 仙台北下五釐卦絵図(その一)

齋藤報恩会蔵

原本

356  
cm × 376  
cm



— 近隣屋敷 —

<東隣>

- ・良覚院
- ・奥山長十郎
- ・亘理藤吉

<西隣>

- ・茂庭周防
- ・古内新十郎

享保九年 1724年以降

川内 大條監物

出典  
東北大学埋蔵文化財調査室調査報告5  
仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区 第16地点  
P8

大條監物

御炭蔵



### 7. 享保9 (1724) 年以降 仙台城下絵図

【参考】



— 近隣屋敷 —

<北隣>

- ・鮎貝又右衛門: 鮎貝宗統の通称。  
仙台藩直轄地、気仙沼の鮎貝家を相続した鮎貝宗益の子。  
禄を増して800石
- ・福井玄効 : 藩の医員。父、福井玄孝(綱村公より禄50貫賜う)の長子。  
延享元年(1744年)没 83歳

<北東隣>

- ・高屋喜安:  
次ページ参照

<南隣>

- ・伊達近江殿
- ・伊達出羽殿

\* (現)地下鉄東西線「国際センター駅」の北側。  
元仙台商業高校跡、青葉山交流広場駐車場

宝暦十年～明和三年  
1760年～1766年

出典  
東北大学埋蔵文化財調査室調査報告5  
仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区 第16地点  
P9

川内 大條蔵人

大條蔵人

御炭蔵



8. 宝暦10～明和3 (1760～66) 年 仙台城下絵図

【参考】 ○: 御炭蔵

大條屋敷の面積が、東に約倍に拡大

— 近隣屋敷 —

<北隣>

- ・空き屋敷(鮎貝又右衛門が転出)
- ・福井玄効(移動なし) : 藩の医員。  
父、福井玄孝(綱村公より禄50貫賜)の長子。延享元年(1744年)没83歳

<北東隣>

- ・高屋喜安(移動なし) : 侍医。  
祖の高屋喜庵(同名)は、正徳元年に綱村公の直医。若くして京都、江戸にも学び、延享元年、采地300石を賜。併せて千石。延享3年(1746年)没58歳

<南隣>

- ・伊達式部殿
- ・伊達将監殿



\* (現)地下鉄東西線「国際センター駅」の北側。  
元仙台商業高校跡、青葉山交流広場駐車場



天明六～寛政元年 1786年～1789年  
川内 大條内蔵人 <細>



— 近隣屋敷 —

<北隣> 福井玄効(藩医)転出。

福井跡地と高屋南部分を追加？

- ・高城宅三郎: 弓術家(仙台藩日置流雪荷派)。宝暦5年、藩の射芸指南役。禄三十貫文を給される。上洛三回、弓芸で天下に名声。寛政4年(1792年)没 69歳

<北東隣>

- ・高屋喜庵(移動なし)  
\* 但し、南部分の敷地が縮小か？

<南隣>(移動なし)

- ・伊達式部殿 ・伊達将監殿

\* (現)地下鉄東西線「国際センター駅」の北側。  
元仙台商業高校跡、青葉山交流広場駐車場

絵図・地図で見る仙台

④ 仙 台 城 下 絵 図

図

(天明六～寛政元年)

仙台市博物館蔵  
原巻 222cm x 308cm

④ 仙 台 城 下 絵 図 (天明六、寛政元年)

仙台市博物館蔵

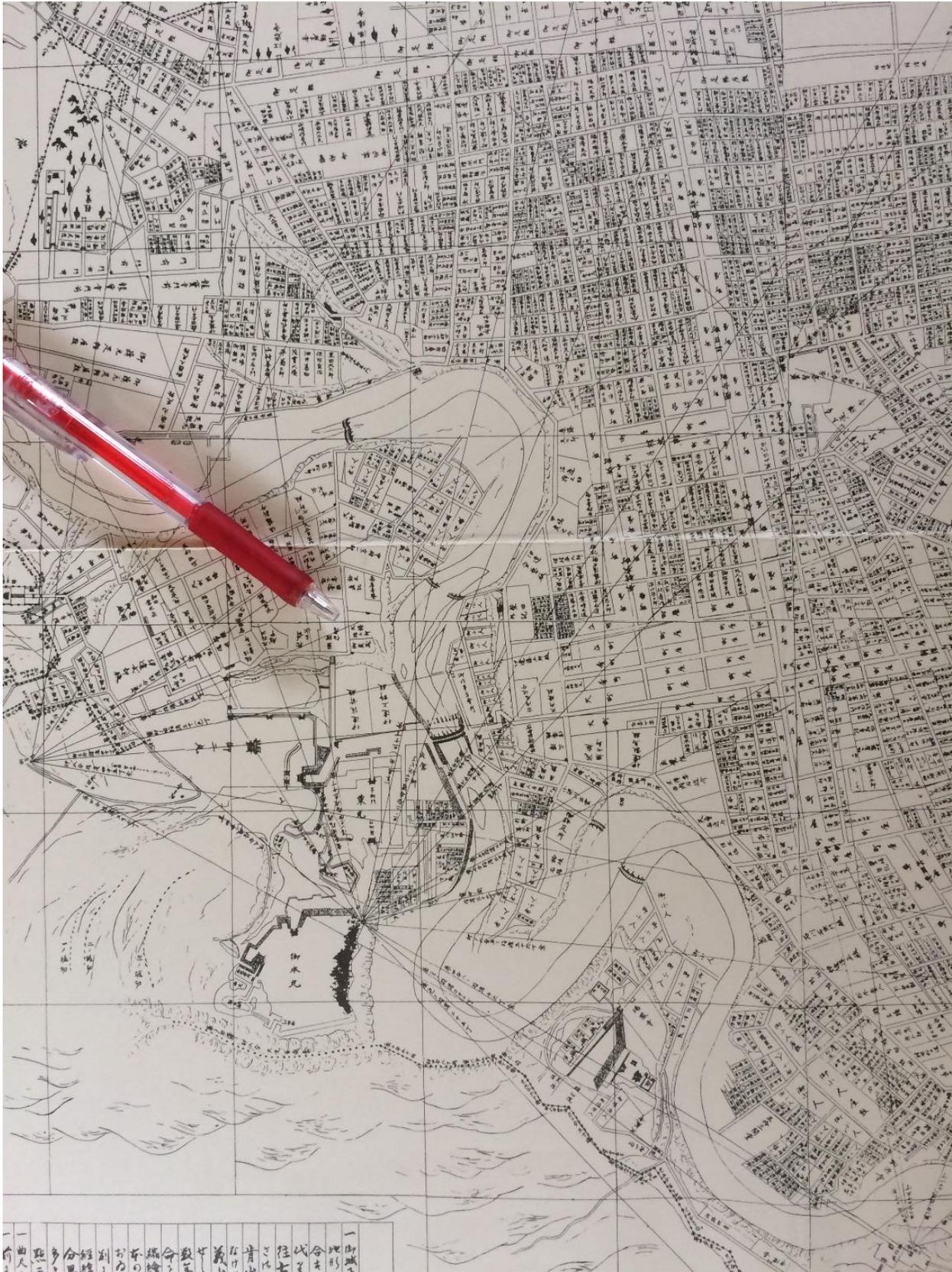
原本

222cm x 308cm

安政三～六年 1856年～1859年

川内 大條孫三郎

<大>



\* (現)地下鉄東西線「国際センター駅」の北側。  
元仙台商業高校跡、青葉山交流広場駐車場

絵図・地図で見る仙台

⑤ 安政補正改革仙府絵図

(安政三～六年)

第二師団司令部蔵  
原本 東西四尺八寸×南北五尺  
(東西144×150cm)

⑤ 安政補正改革仙府絵図(安政三～六年) 第二師団司令部蔵 原本 東西四尺八寸×南北五尺(東西144×150cm)

安政三～六年 1856年～1859年

川内 大條孫三郎 &lt;細&gt;

絵図・地図で見る仙台

⑤ 安政補正改革仙府絵図 (安政三～六年)

第二師団司令部蔵  
原本 東西四尺八寸×南北五尺  
(現)地下鉄東西線「国際センター駅」

## — 近隣屋敷 —

<北隣>高城宅三郎(弓術家)が転出。敷地そのまま変更なし。

・鈴木直記: 仙台藩目付使番。

影山流の剣術をよくし、慶邦公の近侍、監察となる。

戊辰戦争に活躍。明治39年 没 68歳

<北東隣>

・高屋喜庵: (移動なし。大條屋敷川内に遷移当時から)

侍医。

祖の高屋喜庵(同名)は、正徳元年に綱村公の直医。

若くして京都、江戸にも学び、延享元年、采地300石を賜。

併せて千石。延享3年(1746年)没58歳

<南隣>

・伊達筑前殿

・伊達上野殿

\* (現)地下鉄東西線「国際センター駅」の北側。

元仙台商業高校跡、青葉山交流広場駐車場

⑤ 安政補正改革仙府絵図(安政三～六年) 第二師団司令部蔵 原本 東西四尺八寸×南北五尺(東西144×150cm)

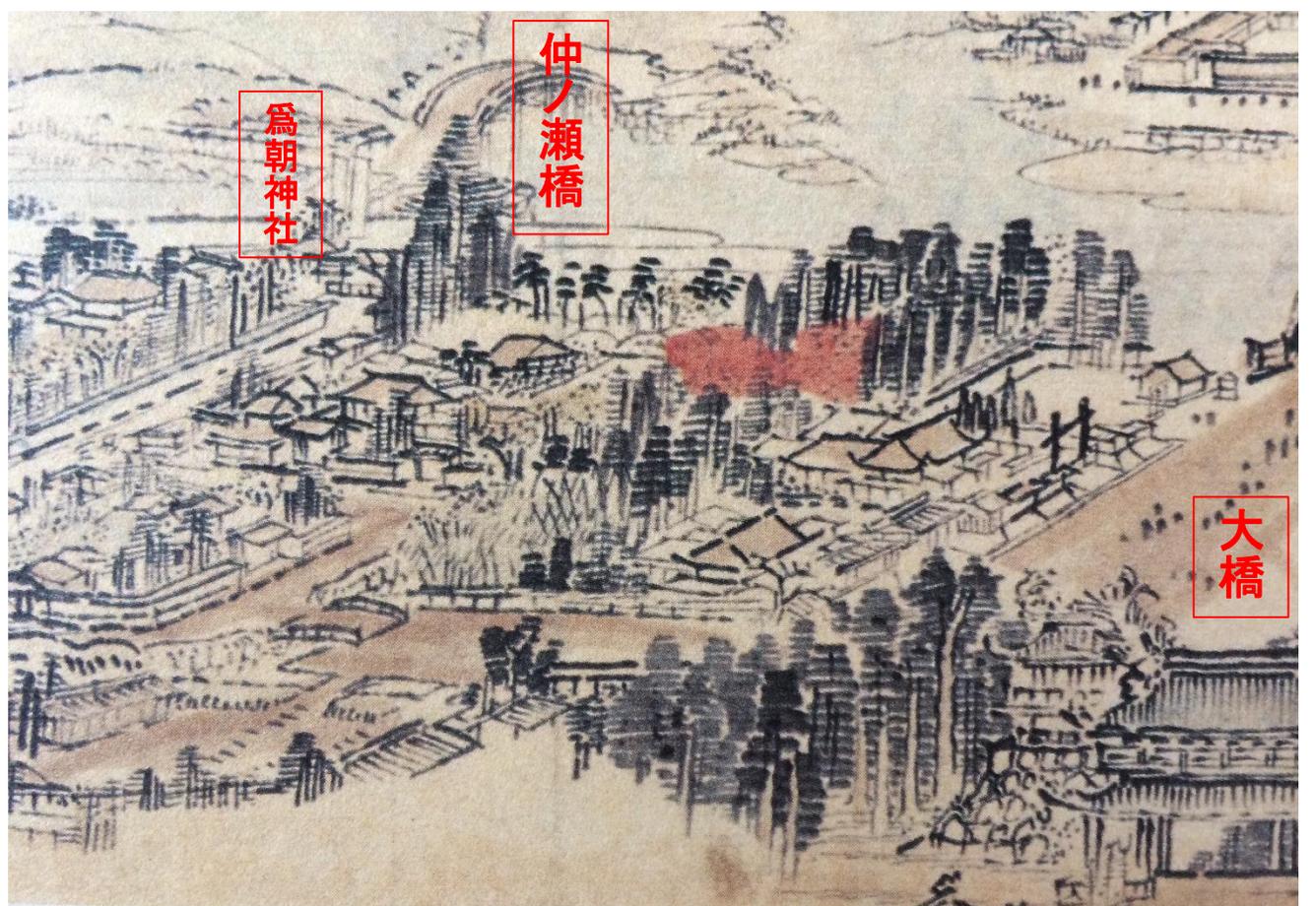
明治元年 1868年 大橋屋敷絵  
川内 大橋から仲ノ瀬橋

<大>

絵図・地図で見る仙台

⑥ 明治元年現状仙台城市之図 (明治元年)

仙台市博物館蔵  
原本 三・〇〇×九五・〇〇



⑥ 明治元年現状仙台城市之図 (明治元年)

仙台市博物館蔵

原本

38.0cm × 95.0cm

\* (現)地下鉄東西線「国際センター駅」の北側。  
元仙台商業高校跡、青葉山交流広場駐車場

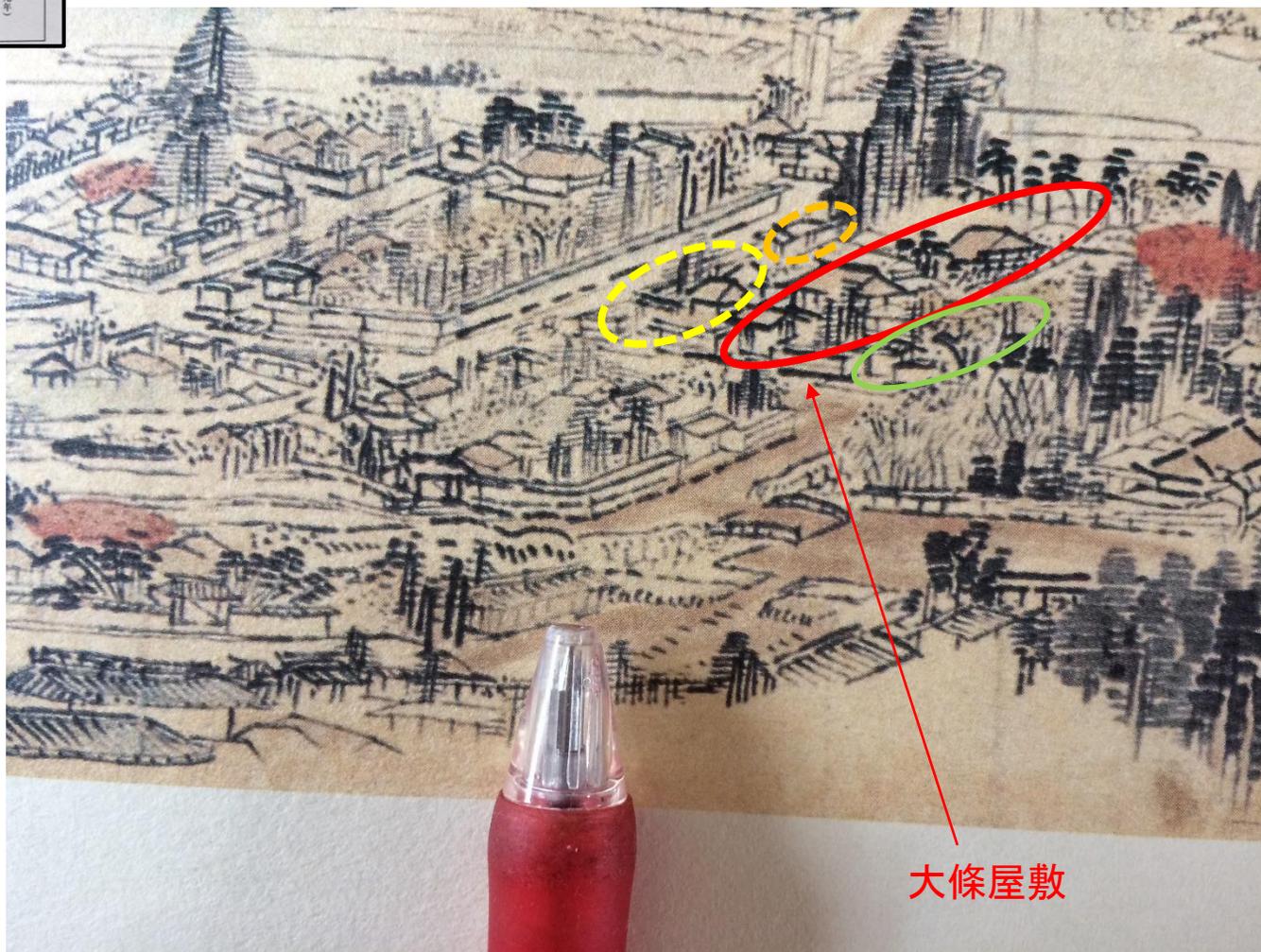
明治元年 1868年 大條屋敷絵  
川内 大橋から仲ノ瀬橋

絵図・地図で見る仙台

⑥ 明治元年現状仙台城市之図 (明治元年)

仙台市博物館蔵  
原本 三八・〇〇×九五・〇〇

<細>



大條屋敷

  鈴木屋敷か
   : 高屋屋敷か
   : 御炭蔵

⑥ 明治元年現状仙台城市之図 (明治元年) 仙台市博物館蔵  
 原本 38・00cm × 95・00cm

\* (現)地下鉄東西線「国際センター駅」の北側。  
 元仙台商業高校跡、青葉山交流広場駐車場

明治二十六年 1893年

「絵図・地図で見る仙台」

⑦-1

支倉町

<大>

絵図・地図で見る仙台

⑦ 仙台市測量全図(明治二十六年)

仙台市役所発行  
仙台市雑華文庫蔵  
原本 85.3cm x 119.3cm

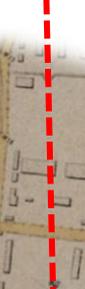
⑦ 仙台市測量全図(明治二十六年)

仙台市役所発行仙台市雑華文庫蔵

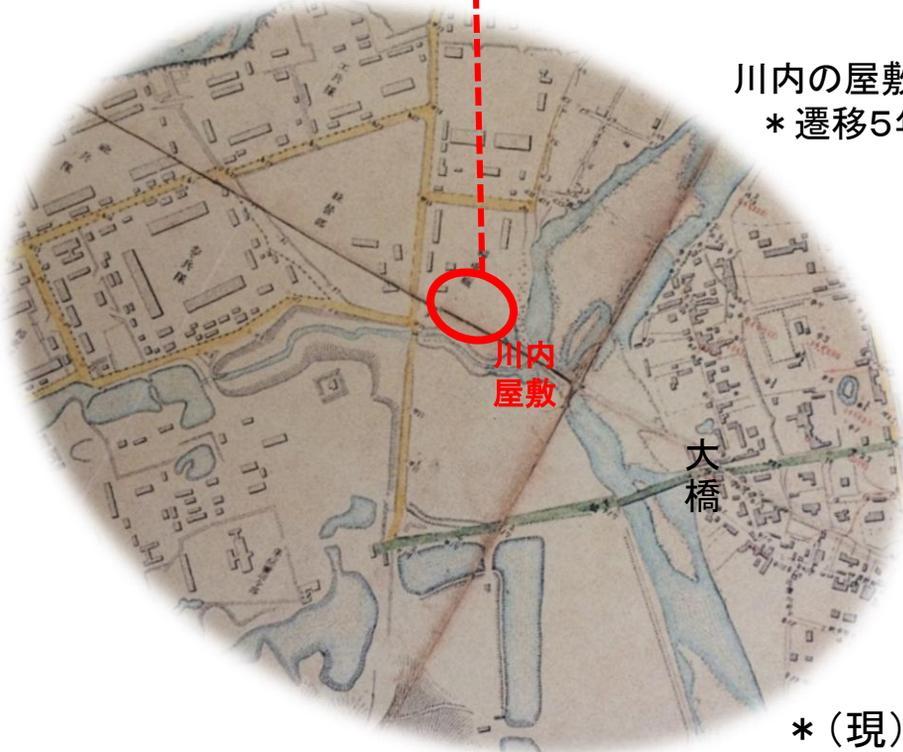
原本 85.3cm x 119.3cm



支倉町



川内の屋敷から支倉町へ遷移  
\* 遷移5年後の川内屋敷跡



川内  
屋敷

大橋

\* (現)仙台市青葉区広瀬町

明治二十六年 1893年

「絵図・地図で見る仙台」

⑦-2

支倉町

<細>



支倉通北二番町西南角

【参考】 仙台市青葉区広瀬町



\* (現)仙台市青葉区広瀬町

⑦ 仙台市測量全図

仙台市役所発行  
仙台市測量全図  
文庫  
原簿  
八五三〇×一九三三

⑦ 仙台市測量全図(明治二十六年) 仙台市役所発行仙台市

雑華文庫蔵 原本85.3cm×119.3cm

○大條監物 調査した地図は、①～⑧の8種 + 明治元年現状仙台城市之図(スケッチ絵図)

片平町 1

- ①「仙台下絵図」(寛文四年)1664年  
\* (現)東北大学片平キャンパス内「電気通信研究所」
- ②「仙臺城下繪圖の研究」附圖第一六(延寶六年同八年)1678年～1680年  
\* 別地図だが、大條敷地は同じ位置で、近隣に変更あり。  
\* (現)東北大学片平キャンパス内「電気通信研究所」

片平町 2

- ③「仙台下五麓卦絵図」(元禄4～5年)1691年～1692年  
\* (現)高等検察庁

川内 1 (以降、川内での遷移なし)

- ④「仙台下絵図」(享保九年)1724年以降  
\* 隣の御炭蔵の方が敷地面積が広い、御炭蔵敷地の約1/2  
\* 北: 鮎貝又右衛門/東: 高屋喜安/南: 御炭蔵  
\* (現)地下鉄東西線「国際センター駅」の北側、元仙台商業高校跡、青葉山交流広場

メモ(1)

○大條蔵人

川内 2

- ⑤「仙台下絵図」(宝暦10～明和3年)1760年～1766年  
\* 大條屋敷が東(広瀬川方向)に拡大。御炭蔵の2倍の広さに。  
\* 北隣は、空き屋敷。その奥は高屋喜庵。
- ⑥「仙台下絵図」(天明六～寛政元年)1786年～1789年  
\* 広さ、位置に変更なし。北隣が敷地拡大して「高城宅三郎」屋敷に。その奥が高屋喜庵。

○大條孫三郎

川内 3

- ⑦「安政補正改革仙府絵図」(安政三～六年)1856年～1859年  
\* 広さ、位置に変更なし。北隣が「鈴木直記」屋敷に。その奥が高屋喜庵。

支倉町 1

- ⑧仙台市測量全図(明治二十六年)1893年  
\* (現)仙台市青葉区広瀬町

大條家の茶室(天保3年1832年、15代大條道直が藩主伊達斉邦から下賜)の3室のうち、1室の10畳間は継ぎ足された増築であり、その構造は弓道場を改築したものであることが判明している。(2018-9年調査 株伝統建築研究所)

・いつ ・なぜ弓道場か ・どこの弓道場か は不明で、多角的な調査が待たれている。  
本仙台古地図調査で、北隣地に仙台藩射芸指南役の弓術家である高城宅三郎の屋敷があったことが判明した。ここにヒントはないだろうか。  
高城宅三郎屋敷は、天明六～寛政元年作成の地図に現れ、安政補正改革仙府絵図には、剣術家の鈴木直記屋敷に代わっている。年代を追いながら推論してみる。

メモ(2)

茶室10畳間(元は弓道場)に関する推論



・高城屋敷に弓道場が建てられていたことは、想像にかたくない。  
・高城屋敷の転入・転出時期は不明。しかし、  
すくなくも1786年頃には入居しており、弓道場の建立も入居後間もないと考えて妥当か。  
1856年頃までには確実に転出している。しかし、転出後も弓道場が残存していた可能性も大いに考えられる。  
茶室10畳間の増築は、1832年(天保3年)以降、川内において、隣家の弓道場を移築したとの推測は成立つか。  
推論1) 1832年(天保3年)以前に高城屋敷が転出していた場合  
<誰が>茶室拝領の15代道直 <いつ> 1832年茶室拝領建造時に同時増築 <弓道場築年数>50年弱程度  
推論2) 同上  
<誰が>茶室拝領の15代道直 or 16代道治 <いつ> 1832～1856年の間に <弓道場築年数>約50～70年  
推論3) 1832年(天保3年)以降鈴木屋敷転入直前まで、長く高城屋敷だった、或は転出後でも残存していた場合  
<誰が>17代道徳(茶室に愛着) <いつ>引退後1872年前後～数年 <弓道場築年数>約85年  
・いづれにしても、  
茶室10畳間が、天明～寛政期に仙台藩射芸指南役によって川内の大條屋敷の隣屋敷に建てられた弓道場の移築の可能性について、科学的分析も駆使して明らかにできれば、茶室の調査は一步前進すると思われる。